

FAST FACTS



Empowered lives.
Resilient nations.

国連開発計画 (UNDP)

アフリカにおけるUNDPの活動



サハラ以南アフリカは過去10年間にわたり、目覚ましい成長率とガバナンスの改善、基本的な社会サービスへの的を絞った投資によって、2015年までに極度の貧困を半減することを目指すなど国際的に合意された、ミレニアム開発目標 (MDGs) のいくつかについて著しい進捗をしました。

しかしこれらの取組みは今後も、不安定な経済情勢、政変と内部紛争、人口増加、若者の雇用、気候変動、食料不安などの困難に直面することになるでしょう。

サハラ以南アフリカにおける現場の活動

国際連合のグローバルな開発ネットワークであるUNDPは、サハラ以南アフリカ45か国で活動し、政府やコミュニティが持続可能な人間開発を実現できるようにその能力強化に努めています。UNDPは今後も、人々をカづけ、強靭性を構築するための支援に重点を置いて活動をします。

またUNDPは、アフリカにおける現在および今後の優先課題に取り組むため、アフリカ連合、西アフリカ諸国経済共同体、および南部アフリカ開発共同体などの諸機関の能力強化にも努めています。

主要事実

- アフリカは現在、2009年の金融危機から立ち直ろうとしています。北アフリカ経済の斬新な回復で、アフリカ大陸の平均の経済成長率は2012年には4.5%、2013年には4.8%まで回復すると予想されます。
- 過去10年間に多くのアフリカ諸国で達成された人間開発は、今後の明るい見通しにつながるものです。UNDPが発表する人間開発指数 (HDI) が大幅に改善したトップ10か国のうち9か国がサハラ以南の国でした。
- 現在、民主主義体制を敷くアフリカ諸国の数は1960年代以降最多となっています。2010年から2011年にかけて、アフリカ諸国では過去最多となる計40回の選挙が実施されました。

重点活動

UNDPは、アフリカ諸国が人々を中心においた成長を実現できるよう、各国における民間企業の強化、社会保護の拡大、最貧層のための雇用創出、全ての人々のための食料の安定確保の強化を支援しています。また、人権的観点からだけでなく、MDGs達成のための手段として、女性のエンパワーメントに力を入れています。

さらにUNDPは、アフリカ社会がより強靭な社会となるよう、紛争予防、平和構築、長期的復興への道を開くための支援をしています。またUNDPは、自然や気候変動に関連する災害の影響を最小限に抑えるべく、人的・物的損失を防ぎ、これらの事象から復興するための支援をしています。

最後に、UNDPは持続可能性を確実にするため、炭素依存率が低く、アフリカにより適した開発プロセス、そしてアフリカ大陸の豊富な天然資源を経済、社会、環境の3側面から適切に活用する開発プロセスを奨励しています。

民主的ガバナンス: UNDPは、意思決定における国民の関与を強化し、国、地域レベルでの民主的な制度や理念を支えています。

例えば2011年にUNDPは、おおむね平和に実施されたアフリカの19の選挙を支援し、全有権者へ選挙に参加するよう奨励しました。

2011年1月に実施された南スーダンの独立をめぐる国民投票で、UNDPは当時のスーダン政府や開発パートナーと協働し、5600万米ドルのドナー資金を管理し、投票用紙750万枚、投票ブース8500個を調達しました。

UNDPはアフリカ東部と南部だけで、エリトリア、エチオピア、ケニア、マラウイ、ナミビア、ルワンダ、スワジランド、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエなどで、11の人権擁護機関を支援しています。

貧困削減とミレニアム開発目標(MDGs): UNDPはその全ての側面において、包括的で持続可能な人間開発を促進して貧困削減に取り組み、成長と交易によって開発途上国に暮らす全ての人々に恩恵がもたらされるよう支援をしています。

UNDPは、MDGs達成に向けて効果的な戦略を実施できるよう各国を支援しています。そのため、UNDPはMDG加速フレームワーク(MAF)を開発しました。MAFとは、各国がMDGs達成のための優先課題に取り組むうえで、阻害要因となっているものを特定し、その国に適した行動計画の策定を体系的に支援するものです。ブルキナファソ、チャド、マリ、ニジェール、タンザニア、トーゴは、食料の安定確保に重点を置いてMAFに着手しました。ガーナとウガンダは妊産婦の健康を重視しています。ガーナはさらに、公衆衛生へのアクセスに関連する問題に取り組むためにもMAFを活用することになっています。

UNDPは、HIV感染者の削減から農村開発の促進まで、インパクトのある変化を生む介入に焦点を当てています。例えばリベリアでは保健省が世界エイズ・結核・マラリア対策基金からの数百万ドルに及ぶ助成金の資金受入責任機関という役割を引き継ぐことができるよう、UNDP主導のプログラムを通じて支援しました。このプログラムによって、2010年末までに15万人以上がHIV/エイズのカウンセリングと治療を受けました。

グローバルなレベルでは、UNDPは貧困削減のための国連の取組みにおいて中心的役割を果たし、UNDP総裁が国際開発に携わる主要な国連機関が参加する国連開発グループ(UNDG)の議長を務めています。また国レベルでは、UNDPの国事務所代表が国連常駐調整官を務めています。

環境とエネルギー: UNDPは、開発途上国が持続可能なエネルギーへのアクセスを拡大し、低炭素型の開発手段を実現し、気候変動と闘うことができるよう支援をしています。UNDPは、西アフリカ7か国の農村部住民350万人にエネルギーサービスを提

供する大規模なプログラムを主導しています。農村部コミュニティにディーゼルとバイオ燃料の発動機を設置したことにより、女性や女兒が家事に費やす時間が1日当たり2~4時間短縮されました。これにより、彼女たちが学校に通うことや他の活動から収入を得ることが可能になりました。

エチオピアは、UNDPと英国国際開発省(DFID)の技術的・財政的支援を受けて、温室効果ガスの排出を増やさずに今後20年間で国の開発を強化することを目指す計画に着手しました。このイニシアティブは、エチオピアの人間開発に広範な影響を与えることが予想されます。

危機予防と復興: UNDPは、危機を予防するとともにそこから復興し、長期的な開発への道を開くことができるよう、アフリカ諸国の能力強化に努めています。

ガーナでは、UNDPは400万米ドルのプログラムを通じて「平和のための国家機構(National Architecture for Peace)」を支援しています。このプログラムは、コミュニティの対話促進に成功し、2005年から政治紛争の早期警戒メカニズムとして機能しています。このスキームにより、対立する政治的・民族的派閥の間に生じた争議を直接仲裁する、国・地域・地区レベルの和平会議が設立されました。

シエラレオネでは性的暴行やジェンダーに起因する暴行が深刻な問題となっていますが、UNDPは土曜裁判(Saturday Court)に資金とロジ面での支援をしました。女性の問題に重点を置くこの土曜裁判は訴訟手続きを迅速化し、2011年には700件の未処理案件が処理されました。

知識共有と分析作業: UNDPは、アフリカ大陸の開発問題に関する理解向上を目指しています。UNDPはアフリカの政策決定者に情報を提供するための知的リーダーシップと分析作業を提供し、革新的変化を実現するソリューションに貢献しています。また、地域パートナーと協力して、いくつかの年報を作成しています。その一部が、アフリカ53か国における経済展望の概要を示す「[アフリカ経済の展望](#)」や、アフリカ大陸におけるMDGs達成に向けた進展、課題、政策オプションを紹介する「[MDGs進捗報告書ーアフリカにおけるMDGs進捗評価](#)」です。さらにUNDPは、この地域の経済問題に関する革新的思考と政策対話を促進する「[アフリカ経済会議](#)」にも貢献しています。

2012年、UNDPはアフリカに焦点を当てた最初の[アフリカ人間開発報告書](#)を発行しました。この報告書では、アフリカ地域における食料の安定確保と長期的な人間開発との関係を検証しています。アフリカにおけるUNDPの活動の詳細については、www.undp.org/africaをご覧ください。



Empowered lives.
Resilient nations.